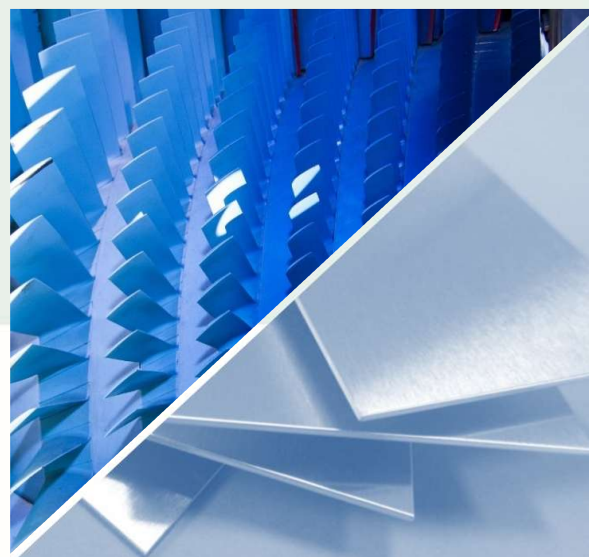


# 株式会社中金

## 2024年度環境経営レポート

(対象期間:2024年1月1日～2024年12月31日)



## 目 次

項 目	ページ
ごあいさつ	2
環境経営方針	2
組織の概要	3
環境経営組織及び役割・責任・権限	4
主な環境負荷の実績	5
環境経営目標及びその実績	5
環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の計画	6～10
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	10
代表者による全体の評価と見直し・指示	11
これまでの環境活動の紹介	11

## ごあいさつ

わたしたち中金は昭和25年の創立以来、つねに時代のニーズを素早く察知し、必要とされる技術開発を重ね、21世紀の今日まで着実に歩んで参りました。

その時代に必要な技術を創造し、ひとびとにより安心と安全を。中金はより快適な未来を創造し続けてゆきます。

そしてこの度、従来からの環境活動をさらに積極的に展開すべく、下記の環境経営方針を掲げ、美しい地球環境を未来に引き継ぐために従業員一丸となって取り組んできた成果を環境レポートにまとめましたので、ご高覧いただきますようお願いいたします。

株式会社中金  
代表取締役社長 井上裕嗣

# 環境経営方針

## 環境経営理念

〈基本理念〉

- ・企業に働く者として美しい地球環境を未来に引き継ぐため、環境問題に取り組み、社会の発展と人間の豊かさに貢献しよう。
- ・アルミニウムの表面処理で先駆ける技術力を培い、品質第一の精神で製品を提供し、社会に貢献しよう。
- ・一流思考・一流行動・一流成果を最高の目標として、仕事を通じて創る喜びと優かな心から、生き甲斐のある人生を築こう。

## 環境保全への行動指針

1. 当社は、来るべき脱炭素社会に向け、経済と環境の好循環を目指し、CO<sub>2</sub>排出量の削減とコストの削減に取り組みます。



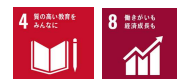
2. 環境負荷の低減、環境目標を達成するために環境マネジメントシステムの有効性を継続的に改善します。



3. 関連する法規制、京都府条例等の地域協定を遵守し、公害防止に努めます。



4. この環境方針は、全従業員に周知するとともに、社外にも公表します。



制定日：2016年2月26日

改定日：2025年1月6日

代表取締役社長 井上 裕嗣

# 組 織 の 概 要

更新日：2025年2月28日

(1) 名称及び代表者名

株式会社中金  
代表取締役社長 井上 裕嗣

(2) 所在地

〒613-0034 京都府久世郡久御山町佐山新開地51  
TEL：0774-43-5651  
FAX：0774-44-4084

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 常務取締役 寺西 一明  
担当者 生産統括 大島 裕一郎

(4) 事業内容

アルミニウム合金部品の表面処理  
(陽極酸化皮膜処理、硬質陽極酸化皮膜処理、化学皮膜処理)  
主要製品分野：航空機部品

(5) 2024年度事業の規模(2024年12月31日現在)

売上高		70111 万円		
		工場	管理部	合計
従業員	名	37 名	20 名	57名
延べ床面積	m <sup>2</sup>	4739 m <sup>2</sup>	956 m <sup>2</sup>	5,695m <sup>2</sup>

(6) 事業年度

1 月 1 日 ～ 12 月 31 日

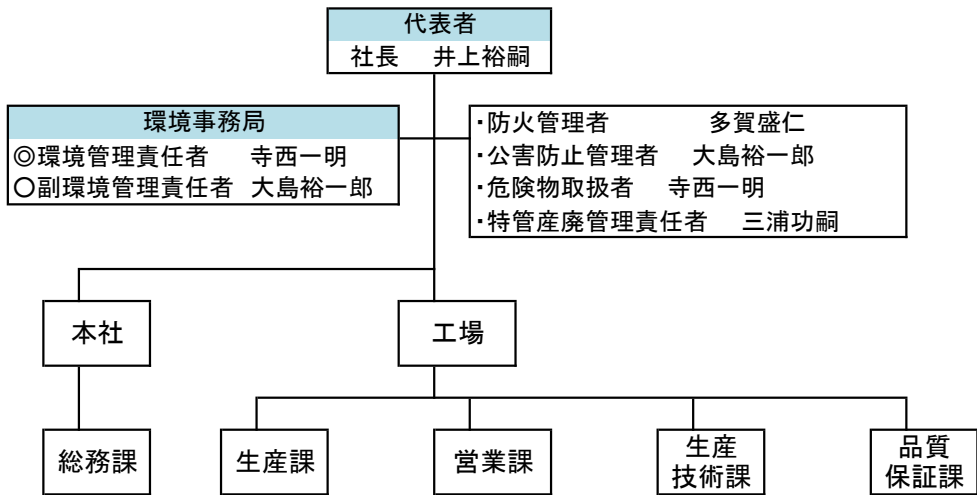
□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：株式会社中金  
対象事業所：〒613-0034 京都府久世郡久御山町佐山新開地51  
TEL：0774-43-5651  
FAX：0774-44-4084

活動：アルミニウム合金部品の表面処理  
(陽極酸化皮膜処理、硬質陽極酸化皮膜処理、化学皮膜処理)

# 環境経営組織及び役割・責任・権限

更新日：2025年1月6日



## 役割・責任・権限

担 当	内 容
代表者	①環境経営システムに関する全ての責任と運用についての権限を持つ。
	②環境経営システムの構築・運用・管理に必要な資源を用意する。 (資源には、人材、設備、費用、時間、専門的な技能、技術を含む。)
	③環境管理責任者を任命する。
	④環境方針の策定・見直し及び従業員への周知を行なう。
	⑤代表者による全体の評価と見直しを実施する。
	⑥環境経営レポートの承認および発行許可。
環境管理責任者	①環境経営システムを構築し、実施し、管理する。
	②作成された環境への負荷及び取組の自己チェックを確認し承認する。
	③法規制等の遵守状況をチェックする。
	④環境方針及び自己チェック等に基づき環境目標を設定し、作成された環境活動計画を確認し承認する。
	⑤環境活動の取組状況を確認し、環境目標の達成状況を評価する。
	⑥問題点の是正、予防処置に対する指示と改善や見直しに必要な処置を行なう。
	⑦環境活動の取組結果を代表者へ報告する。
	⑧EA21に関する運用管理の体制を構築し、各責任者を任命する。
	⑨環境経営レポートの照査、発行責任者。
各部門長	①責任範囲の環境目標及び環境活動計画の実施と環境事務局への達成状況の報告。
	②責任範囲の問題点の発見、是正、予防処置。
環境事務局	①環境経営システム運営のすべての事務を行なう。
	②環境への負荷及び取組の自己チェックを作成し、環境管理責任者へ報告する。
	③「環境関連法規等の取りまとめ及び遵守状況チェックリスト」を作成し、環境管理責任者へ報告する。
	④環境活動計画並びに運用手順書を作成し、実施達成状況を集計し、環境管理責任者へ報告する。
	⑤文書及び記録の管理保管。
	⑥外部コミュニケーションの管理。
	⑦内部コミュニケーションの運営管理。
	⑧従業員に対する教育訓練の実施。
	⑨特定された緊急事態に対する項目の手順書作成、テスト・訓練・記録。
	⑩環境経営レポートの作成。
全従業員	①環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚
	②決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

## 主な環境負荷の実績

項 目	単位	2022年	2023年	2024年
二酸化炭素総排出量	kg-CO <sub>2</sub>	1,026,543	452,694	540,569
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	k g	1,892	1,936	1,664
産業廃棄物排出量	k g	9,778	10,602	9,571
総排水量	m <sup>3</sup>	34,811	31,175	36,131
※電力の二酸化炭素排出係数（調整後）		0.450	0.000	0.000

kg-CO<sub>2</sub>/kWh

※2022年は10月以降、電力の二酸化炭素排出係数0

## 環境経営目標及びその実績

年 度		基準値	2024年		評価	2025年	2026年
項 目		(基準年)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO <sub>2</sub>	593,791	273,144	0	○	273,144	273,144
	基準年度比	2013年	46%	0%		46%	46%
都市ガスによる二酸化炭素削減	kg-CO <sub>2</sub>	412,966	189,965	528,623	×	189,965	189,965
	基準年度比	2013年	46%	128%		46%	46%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO <sub>2</sub>	12,693	5,839	11,947	×	5,839	5,839
	基準年度比	2013年	46%	94%		46%	46%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO <sub>2</sub>	1,019,450	468,947	540,569	×	468,947	468,947
一般廃棄物の削減	kg	2,057	1,954	1,664	○	1,934	1,913
	基準年度比	2015年	95%	81%		94%	93%
廃プラ廃棄物の削減	kg	2,478	2,354	3,015	×	2,329	2,305
	基準年度比	2015年	95%	122%		94%	93%
水道水の削減	m <sup>3</sup>	32,305	30,690	36,131	×	30,367	30,044
	基準年度比	2013年	95%	112%		94%	93%
6価クロム化合物使用量削減	kg	131	124	344	×	121	118
	基準年度比	2013年	95%	262%		92%	90%
製品・サービスへの環境配慮	アイテム	12	30	34	○	30	30
	基準年度比	2015年	250%	283%		250%	250%

※2013年度の電力の二酸化炭素排出係数：0.522kg-CO<sub>2</sub>/kWh

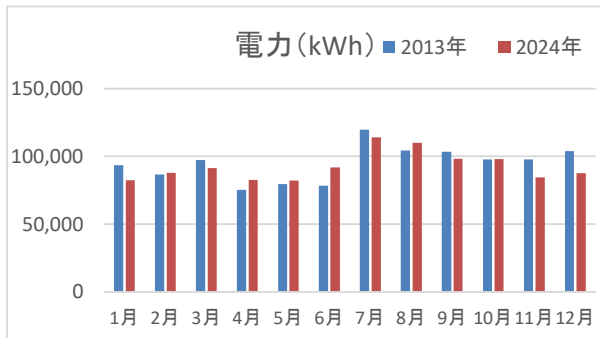


# 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の計画

数値目標: ○達成 ×未達成

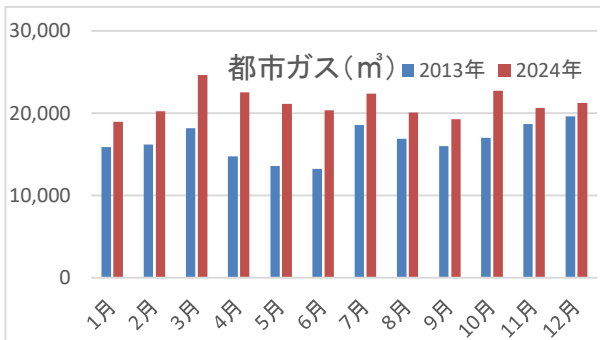
活動: ◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	再生可能エネルギー100%(RE100)の電力に切り替えたことで、今年度の電力によるCO2の排出をゼロにした。また、購入電力量は、基準年度よりも2.3%削減できた。引き続き各課の取り組みは継続して行い、遵守状況をチェックしてフィードバックする。
・不具合による再処理回数の削減	○	
・ノー残業デーの実施	○	
・エアコン設定温度の遵守	○	
・パソコン不使用時のモニタOFF	△	
・不在/不要箇所、不在時の消灯	△	
・電解設備の稼働時間の短縮	△	



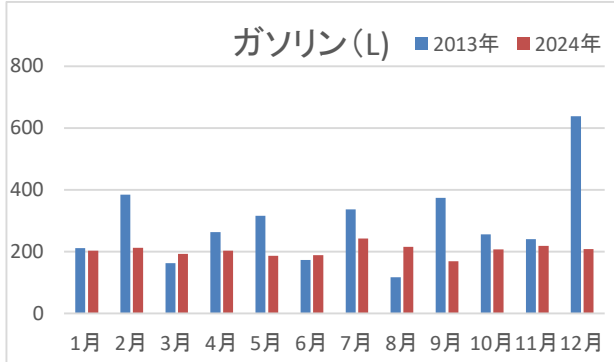
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2013年	93,453	86,583	97,320	75,366	79,652	78,417	119,750	104,414	103,354	97,570	97,662	103,990
2024年	82,416	87,831	91,416	82,586	82,268	91,898	114,018	110,015	98,281	97,943	84,724	87,601

都市ガスによる二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	ボイラーの稼働をできるだけ短くする目標を設定して都市ガスによる二酸化炭素を削減することを試みたが、基準年度よりも28.0%増加した。ガスの使用量の大半がボイラーの燃焼によるもので、処理数の増加によるボイラー稼働時間が長くなったことが原因と考える。
・不具合による再処理回数の削減	○	
・ボイラー稼働時間の削減	△	
・不要な温調OFF	○	

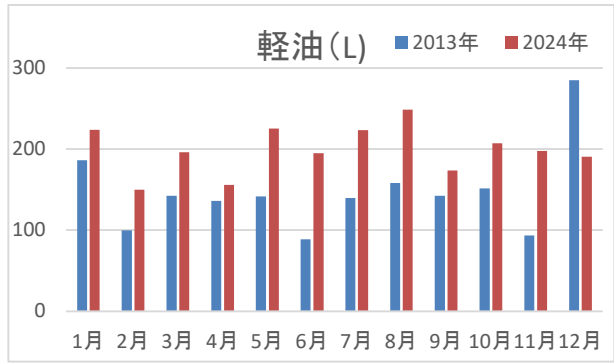


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2013年	15,855	16,183	18,153	14,770	13,597	13,234	18,565	16,909	15,986	17,002	18,684	19,636
2024年	18,956	20,236	24,633	22,533	21,116	20,360	22,397	20,089	19,255	22,733	20,631	21,248

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	基準年度より5.9%削減できたが、目標達成には至らなかった。来年度以降も、エコドライブ等運転方法の配慮励行を行い、引き続き、ガソリン・軽油の使用量削減を目指す。
・エコドライブ等運転方法の配慮を励行	○	



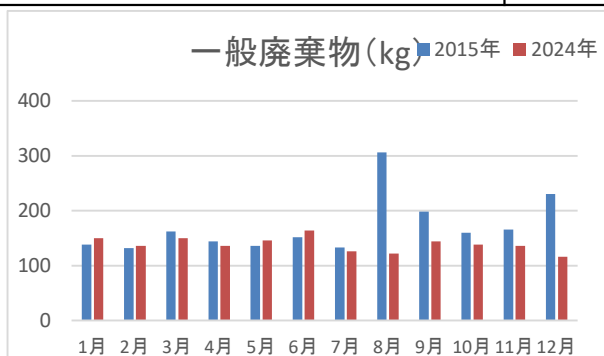
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2013年	211	384	163	264	316	173	337	116	374	256	240	638
2024年	204	212	193	203	186	188	243	216	169	207	219	209



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2013年	186	100	142	136	142	88	140	158	142	151	93	285
2024年	224	150	196	156	225	195	223	249	173	207	197	191

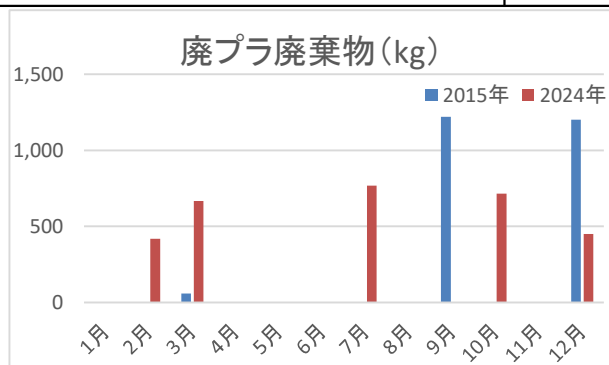


一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	目標から19.1%削減ができた。今後も取り組み内容を継続して行う。
・両面・ツーインワン印刷の推進	△	
・裏紙使用の推進	○	



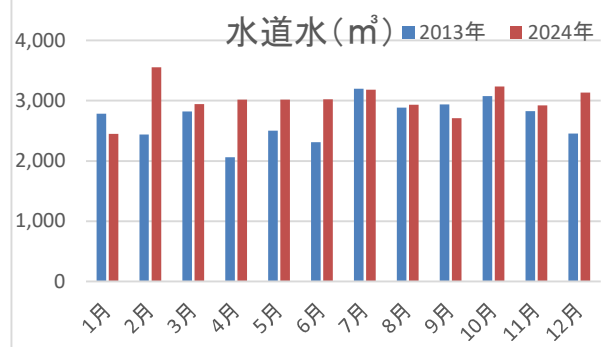
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2015年	138	132	162	144	136	152	133	306	198	160	166	230
2024年	150	136	150	136	146	164	126	122	144	138	136	116

廃プラ廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	3S活動の強化により、不要品の廃棄が増加しており、累計の目標を達成しなかった。3S活動は継続しつつ、ゴミの削減活動も強化する。
・不具合による再処理回数の削減により廃棄量を削減	○	



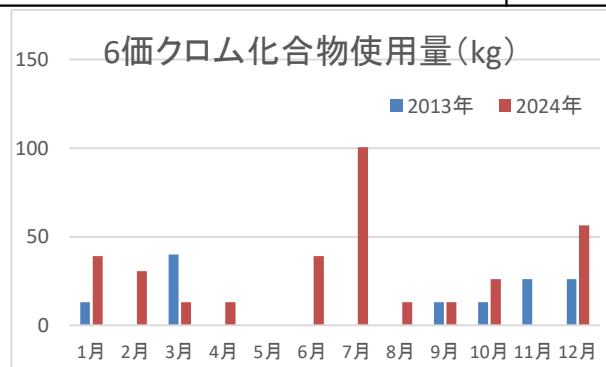
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2015年	0	0	58	0	0	0	0	0	1,220	0	0	1,200
2024年	0	418	666	0	0	0	767	0	0	715	0	449

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	目標値から17.7%オーバーした。年末に各スクラバーのボールタップが効いていないことが判明した。生産量の増加に加え、ボールタップからの漏洩が大きく影響していると考えられる。
・水洗槽バス替え時期の検討	○	
・節水ポスター掲示	○	



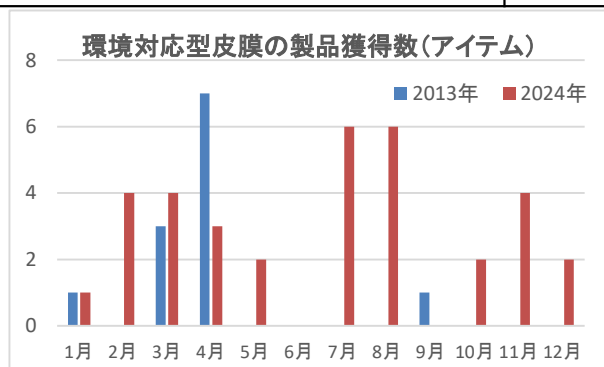
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2013年	2,788	2,439	2,820	2,063	2,501	2,313	3,202	2,886	2,940	3,074	2,827	2,452
2024年	2,450	3,552	2,944	3,016	3,016	3,028	3,184	2,935	2,715	3,235	2,921	3,135

6価クロム化合物使用量削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	基準年度より262.2%増加した。数年に1回更新する大型ラインのクロム酸槽の更新を実施したことにより、基準年度から大幅に増加した。また、生産量の増加も原因と考えられる。
・環境対応型皮膜の製品獲得	○	
・環境に即した処理・工程の技術確立	○	



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2013年	13	0	40	0	0	0	0	0	13	13	26	26
2024年	39	31	13	13	0	39	101	13	13	26	0	57

製品・サービスへの環境配慮	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	目標を達成した。来年度もさらに6価クロムフリー処理(Surtec650処理)の製品獲得を目指す。今後も取り組み内容を継続して行う。
・環境対応型皮膜の製品獲得	○	



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2013年	1	0	3	7	0	0	0	0	1	0	0	0
2024年	1	4	4	3	2	0	6	6	0	2	4	2

### 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

適用される法規制	該当する設備・項目
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（金属くず、廃プラ、廃ガラス、廃油等）
騒音・振動規制法	特定施設届出（空圧機、送風機）
消防法（危険物）	アセトン等の有機溶剤の保管
公害防止管理者法	公害防止統括者、管理者等の選任及び届出
フロン排出抑制法	業務用空調機、冷凍機の定期点検、簡易点検
水質汚濁防止法	特定施設の届出（酸・アルカリ洗浄施設）
下水道法	処理後の最終汚水下水入口水質測定
P R T R 法	クロム、Ni
大気汚染防止法	特定施設の届出（ばい煙発生施設）
地球温暖化対策推進法	管理部・工場

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

### □外部からの環境上の苦情・要望等

- ・外部からの苦情・要望はありませんでした。

# 代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2025年5月26日

2024年は、当社にとって「脱炭素経営元年」と位置づけ、全社を挙げて環境への取り組みを進めてまいりました。CO<sub>2</sub>排出量については、2022年からグリーン電力を導入しているものの、生産量の増加の影響もあり、前年比で23%の増加という結果となりました。環境活動としては悔しさの残る結果ですが、今後の改善につなげていきたい。

一方で、9月にはメインバンクのSDGs宣言サポートを活用し、SDGs宣言書を発行しました。取組状況の評価では、全項目で「A」評価を獲得することができ、これは社員一人ひとりの取り組みの成果であり、大きな自信につながるものだと思います。この評価を励みに、引き続き社内全体で環境意識を高め、脱炭素の取り組みを着実に進める。また、2025年にはSBT認証へのチャレンジも控えており、地球環境にやさしい企業を目指して、歩みを進めていきます。

なお、今年度の重点項目のうち3項目が目標未達という結果になり、これらについては要因をしっかりと見直し、次年度の取り組みにしっかりと反映していきましょう。

環境経営方針	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
環境経営目標・計画	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり
実施体制他	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり

## これまでの環境活動の紹介

SDGs宣言書を発行し、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを明確化しました。さらに、オール京都でSDGsを推進するネットワーク『きょうとSDGsネットワーク』に加入し、地域と連携した持続可能な社会の実現に貢献しています。

2024年9月

株式会社 中金

SDGsとは、「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals)の略称です。  
【誰一人取り残さない】世界の発展に向け、2030年までに達成すべき17の目標と、169のターゲットが定められています。

SDGs宣言書

SDGsが掲げる目標達成に向け、下記のとおり宣言いたします。

取り組みテーマ	具体的取り組み	SDGs目標
アルミニウムの可能性を広げる	アルミニウムの表面処理技術の研究に努むことで、高い品質の製品をお客様に提供してまいります。 【主な取組】 <ul style="list-style-type: none"><li>JIS Q 9100とISO9001認証の取得による高品質な技術の提供</li><li>お客様の使用環境に応じた耐久性（耐食性・耐摩耗性など）のご提案</li><li>耐久性の向上に向けた研究開発による製品の長寿命化</li></ul>	9 産業とインフラの基盤技術 12 持続可能な消費と生産
人と自然が共生する未来へ	美しい地球環境を次世代に引き継ぐため、環境負荷の低減に努めてまいります。 【主な取組】 <ul style="list-style-type: none"><li>エコアクション21の認証取得による環境保全を重視した環境経営の実践</li><li>再生可能エネルギー100%（RE100）への移行による温室効果ガス排出量の大幅削減</li><li>六価クロムフリー製品など環境対応型化学皮膜製品の利用推進</li></ul>	6 安全な水と衛生 7 再生可能エネルギー 13 気候変動
従業員の成長を応援する職場づくり	仕事を通じて知る喜びと豊かな心を育み、働きがいを持てる職場を行ってまいります。 【主な取組】 <ul style="list-style-type: none"><li>定期的な社内規定の見直しによる時代に即した労働環境の整備</li><li>労働組合との月例協議を通じた長時間労働の抑制</li><li>各種資格取得に向けたサポートの実施</li></ul>	3 健全な生活 4 質の高い教育 8 働きがい